

## ILOソマリア事務所との連携によりソマリア向け道路整備研修を実施

2012年4月4日

2012年2月1日（水）から同3月26日（月）までの8週間に亘り、JICAケニア事務所はタンザニアのムベヤ州にある適正技術研修所（Appropriate Technology Training Institute : ATTI）にてソマリアの省庁や大学のエンジニア9名を対象とした道路整備の研修を実施しました。ソマリアでは道路をはじめとしたインフラ整備のニーズが高い中、コミュニティと幹線道路を結ぶ村道の整備が求められています。そこで、同研修では国際労働機関（International Labor Organization : ILO）が普及を進めている「Labor-based Technology (LBT)」と呼ばれる人力を主体とした道路修復と維持管理手法を対象として、講義とATTI近隣の道路を用いた修復と維持管理に関する実習が行われました。

研修終了時にはソマリアに戻った後の行動計画（アクション・プラン）が研修員から提出されました。同計画ではLBTを用いた道路整備や研修員の同僚らに対するLBT研修の提案がなされ、ソマリアでのLBT普及や具体的な場所でのLBTによる道路整備に対する研修員の強い意欲が窺われました。

今回の研修はソマリアの3つのゾーン（中南部、プントランド、ソマリランド）それぞれからエンジニアが研修員として参加しました。これらの政府間では対立関係もありますが、研修員は一つの「ソマリア」から参加した研修員として、出身地にかかわらずお互い支えながら研修を受講していました。

なお、JICAはソマリア内に事務所を持っていないことから、本研修はILOソマリア事務所からの支援を受けて実施されました。研修期間中にはILOソマリア事務所の職員が研修を視察し、さらに工事費の積算や道路整備の準備段階に必要な調査に関する講義を実施する等、ILOから技術面の支援を受けました。また、ILOはソマリア内でLBTを用いた道路整備事業を実施していることから、ILOと連携して研修のフォローアップを実施することも今後期待されます。

本研修の実施機関であるATTIはJICAが技術協カプロジェクトを通じて2011年2月まで支援したタンザニア政府の研修機関であることから、今回実施されたソマリア向け研修はJICAによる支援の成果を活かした対ソマリア支援の事例とも言えます。



講義では研修員から活発に質問がなされた



実習で研修員（水色の作業着を着用）は測量等の実技に従事した



実習にて工事が設計通りに行われているか確認する研修員



工事には地元住民も参加して実習が行われた



実習で施工状況の確認をするATTIインストラクター（右）と研修員（左）